

序

2020年4月1日

医学科長 河島 尚志

日進月歩の医学では日々新たな発見がなされ、何らかの形で臨床に応用され、診療の進歩として社会に貢献するようになってきています。数年の内でこれまでとは疾患概念や診断法も変わってきている病気もあります。代表的なものは医学生にとっても必須の知識として要求されるので、普遍的な学修事項と合わせると卒業までに身に付けるべき内容は質、量ともに毎年増加しています。

一般教育においてはリベラルアーツを身に付け、多様性のある思考力や幅広い視野を養いますが、同時に人格や倫理観も養うことを第一の目標としています。これは医師としての指導力、協調性、国際性の基礎となるはずです。

臨床教育での本学の教育カリキュラムは医学における専門的知識や技術を効率的に学べるように、講義内容や形式は基礎医学と臨床医学、あるいは臨床医学間の垣根を超えた工夫がなされています。また、系統的な講義も可能な限りの少人数制に移行が進み、参加型臨床実習は時間数の大幅な増加、あらゆる局面で指導者と学生間のコミュニケーションが可能な双方向型教育を主流とするなど、より個人個人に身につくことに配慮しています。医療プロフェッショナリズム、医療安全など社会から要望されている内容も網羅しています。さらに、卒前と卒後教育の連続性もさまざまな部門で考慮してきています。

しかし、手取り足取りで学ぶ機会が多く提供されているカリキュラムですが、知識は「自主自学」の精神を発揮し、自ら積極的に検索し議論してこそ定着していきます。

医学生として学ぶことは医師としての生涯学習の開始である、という自覚を持ち、知識とともに倫理観、協調性、責任感の備わった医師を自ら学ぶ精神を大事にしてください。修得すべきことは数多く多岐にわたりますが、受け身より能動的な姿勢が重要です。私たちは、充実した学生生活となるよう学生一人一人を支援しますので、良き医療人となるよう頑張ってください。

また、医学教育の改善改良への取り組みは学生だけでなく、常に我々医療人も必要であるため、カリキュラムに関することばかりでなく、どのような意見でも歓迎しますので遠慮なくご連絡ください。